

Title	医療現場におけるコンフリクトの実態とその要因に関する考察
Sub Title	
Author	井出, 恵伊子(Ide, Eiko) 田中, 滋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2007
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2007年度経営学 第2198号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002007-2198">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002007-2198</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	田中 滋 研究会	学籍番号	80630054	氏名	井出 恵伊子
(論文題名)					
医療現場におけるコンフリクトの実態とその要因に関する考察					
(内容の要旨)					
<p>医療政策は近年大きく変化し続けており、各医療機関は個々にその対応を迫られている。しかし各医療機関が考慮すべきマネジメント上の問題の中で、今後も継続するであろう医療政策に関連した大きな方向性は、ある程度明確であろう。つまり、①医療サービスの質の向上、②資源の効率的利用、③患者満足度(CS)の向上の3つに集約されると思われる。</p> <p>①～③を達成するために様々な制度が導入された。しかし急性期医療現場では「医療崩壊-医師の立ち去り型サボタージュとは何か」に指摘されるように、やる気のある医療者たちが病院を立ち去ったり熱意を失ったりしていると言われている。このような現状で、真に①～③の目的は遂げられるのだろうか？医療サービスの質は提供する医療者に依存するところが大きい。従って医療者のES(従業員満足度)なくしてCSはあり得ないのではないか。医療者の「サボタージュ」問題が技能の伝承等の観点から手遅れにならないようにしなければ、今後のよい病院経営は成り立たないと考える。</p> <p>本研究は特に外部からなかなか状況が判断しづらい、急性期医療の現場におけるこのような実態の解明を主旨としている。また、病院のマネジメント機能を改善すればいい問題なのか、それとも制度自身に問題があるのかという視点にも踏み込んで、今後の医療のあり方の一資料を提供するものである。</p>					